

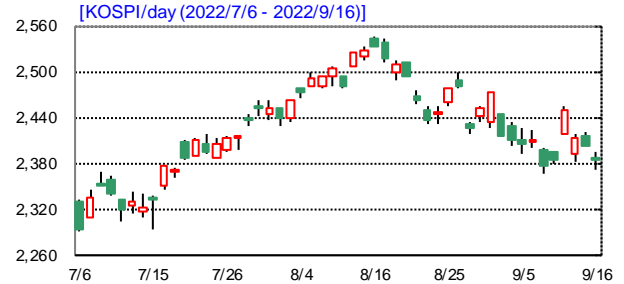


【韓国】 総合指数は週間で0.1%安と5週続落、今週はFOMCに注目

先週の動き／今週の展望

総合指数は週間で0.1%安と5週続落。12日が秋夕（チュソク）で休場だったため、4日間のみの取引だった。休場明け13日は前週末比2.7%高と大幅に続伸。休場中にその他の主要市場が上昇した流れに追随し、上昇幅は21年2月下旬以来、約1年半ぶりの大きさだった。ただ、14日は1.6%安と反落。米国の8月のCPI上昇率が市場予想から上振れたことで、積極的な金融引き締めへの警戒感が強まった。15日は米小売売上高や鉱工業生産の発表を控えて様子見ムードが広がり、続落。16日は、米小売売上高や新規失業保険申請件数が堅調だったことで、FRBが大幅な利上げを継続するとの見方が嫌気され、3日続落した。今週は20-21日のFOMCをにらんで神経質な展開か。国内では23日に8月のPPIが発表される予定。

▼指数チャート

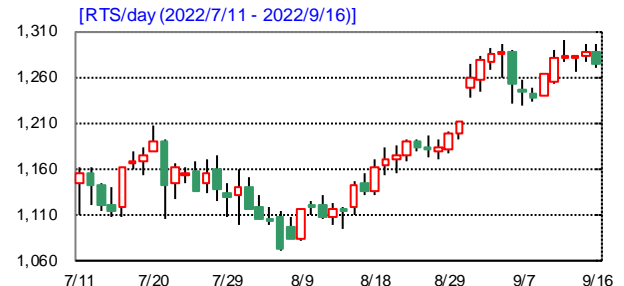


【ロシア】 RTS 指数は週間で1.0%高と反発、今週は一進一退の展開か

先週の動き／今週の展望

RTS 株価指数は週間で1.0%高と反発。エネルギー株や資源株の下落が重しとなったものの、週初の海外株高やルーブル高が支えとなった。週明け12日は欧米株高を追い風に前週末比で1.4%高と続伸。その後もルーブル高が支援となり、15日までおおむね堅調に推移した。原油などの商品相場の下落を受けてエネルギー株や資源株が下落したが、金融株や生活必需品株などが上昇し、指数を支えた。ルーブルは対ドルで1.7%上昇し、ブレント原油は1.6%下落した。個別銘柄では金融のTCSグループ・ホールディングが11.4%高、スーパーのX5リテール・グループが10.7%高となった一方、エネルギーのロスネフチが5.0%安、資源のノリリスク・ニッケルが3.1%安、産金のポリュスが2.1%安となった。今週は一進一退か。

▼指数チャート



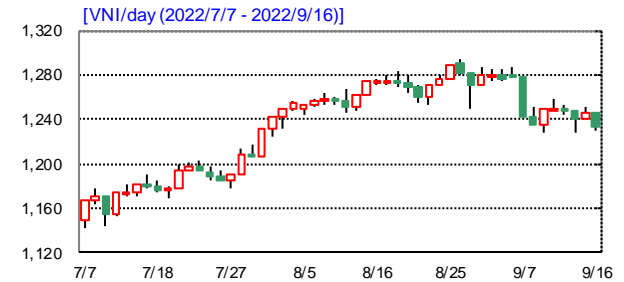
【ベトナム】 ベトナム指数は週間で1.2%安と3週続落、今週は米金融政策が焦点

か

先週の動き／今週の展望

VN 指数は週間で1.2%安と3週続落。米国株安や海外勢の売り越し、米FOMCを控えた様子見姿勢が重しとなった。週前半の12-13日に小幅にもみ合ったが、14日は米国の8月の消費者物価指数（CPI）が市場予想を上回ったことで前日の米国株が急落したことが重しとなった。下落場面では押し目買いが強まったものの、16日は海外投資家が売り越しとなる中、大幅利上げが予想される米連邦公開市場委員会（FOMC）を控え、様子見姿勢が広がった。個別銘柄では不動産のビンコム・リテールが8.5%高、ノー・バー・ランド・インベストメントが2.0%高となった一方、金融のサコムバンクが5.5%安、SSI証券が4.7%安、飲料のサイゴンビール・アルコール飲料が4.4%安と下落した。今週は米国の金融政策をにらんだ展開か。

▼指数チャート



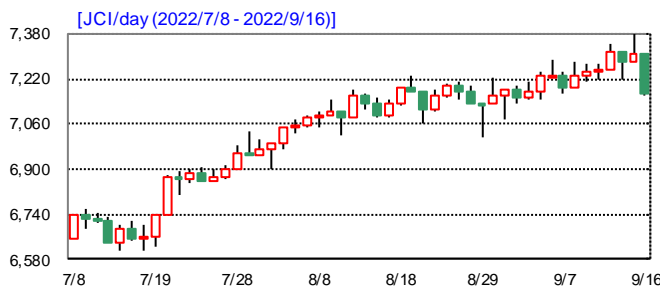


【インドネシア】

【先週の動き／今週の展望】ジャカルタ総合指数は 1.0%安、今週は 22 日に中央銀行が金融政策決定会合を開催

ジャカルタ総合指数は週間で 1.0%安と 3 週ぶりに反落。週末の下落が響いた。週初の 12 日に 3 営業日続伸すると、13 日は好地合いが続く中、終値で初めて 7300 ポイント台に到達し、過去最高値を更新。14 日は前日の NY ダウが大幅利上げに対する警戒感から急落した影響で反落したが、15 日は世界的な商品価格の高騰を背景に、8 月の貿易黒字額が市場予想から上振れた効果で買い戻された。ただ、16 日は利益確定売りなどで前日比 1.9%安と 7200 ポイントを割り込んで取引を終えている。今週は 22 日に中央銀行が定例の金融政策決定会合を開催する予定で、2 会合連続での利上げが実施されるとの見方が優勢。

▼指数チャート

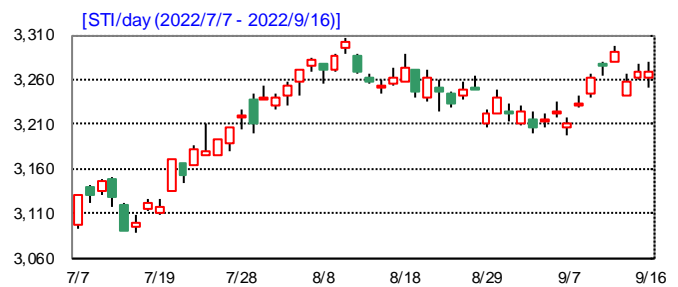


【シンガポール】

【先週の動き／今週の展望】ストレーツタイムズ指数は 0.2%高、今週は 23 日発表の 8 月の CPI が焦点

ストレーツタイムズ指数は週間で 0.2%高と続伸。米国の 8 月の CPI 発表を受けて下落したが、その後の反発で補った。週初の 12 日は前週末の NY ダウが上昇した流れを引き継ぎ、3 営業日続伸。13 日も上値を広げたが、14 日は前日に発表された米 CPI の上昇率が市場予想を上回り、大幅利上げの継続に対する警戒感が高まった影響で、指数は前営業日比 1.0%安と 5 日ぶりに反落した。ただ、15 日に買い戻されると、16 日は 8 月の非石油地場輸出が予想から上振れた効果などで小幅続伸している。今週は 23 日に 8 月の CPI が発表される予定で、前年同月比の CPI 上昇率は 2 カ月連続で 7%台になる見通し。

▼指数チャート

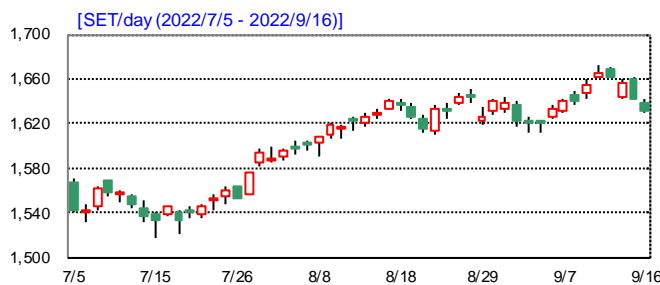


【タイ】

【先週の動き／今週の展望】SET 指数は 1.5%安、今週は 8 月の貿易統計に期待

SET 指数は週間で 1.5%安と反落。じりじりと下値を広げた 1 週間だった。週初の 12 日は、原油価格の下落を受けてインフレ緩和に対する期待感が高まった効果で買われ、指数は 5 営業日続伸。ただ、13 日は閣議で最低賃金の引き上げやディーゼル燃料の減税が承認されたものの買い材料視されず反落すると、14 日は米国の 8 月の CPI 発表後に大幅利上げ継続に対する懸念が強まった影響で続落した。週後半も軟調な値動きが続き、結局 16 日まで 4 日続落して取引を終えている。今週は 22 日に 8 月の貿易統計（通関ベース）が発表される予定で、前月まで 4 カ月連続で赤字だった貿易収支が黒字転換すれば好材料。

▼指数チャート

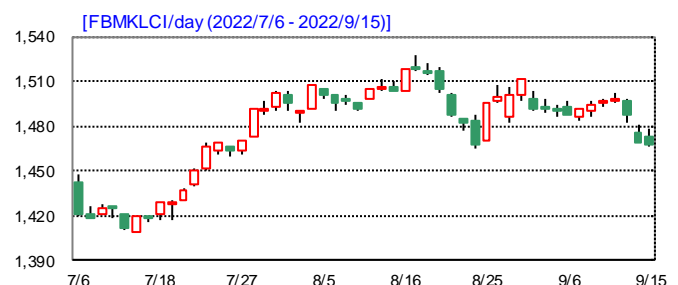


【マレーシア】

【先週の動き／今週の展望】クアラルンプール総合指数は 2.0%安、NY ダウの大幅下落に連動

クアラルンプール総合指数は 4 日間の取引で 2.0%安と反落。さえない値動きが続いた。週初の 12 日は、米国の CPI 発表を翌日に控えた様子見が広がる中、指数は小幅に 4 営業日続伸。ただ、13 日に銀行株を中心に利益確定売りが出て反落すると、14 日は引け際に売られ、前日比 1.3%安と続落した。15 日も買い材料に乏しく、小幅に下落して連休前の取引を終えている。今週は 20 日の 8 月の貿易統計に続き、23 日には同月の CPI が発表される予定。前年同月比の CPI 上昇率は 2 カ月連続で 4%台になると予想されている。外部要因では、20-21 日に開催される米 FOMC の動向が指数を左右する展開になりそうだ。

▼指数チャート



本レポートは、株式会社DZHフィナンシャルリサーチ（以下、「DZH」と称します）により作成されたものです。

本レポートは、DZHが信頼できると判断した各種データ、公開情報に基づいて作成しておりますが、DZHはその正確性、完全性を保証するものではありません。

ここに示したすべての内容は、DZHで入手しえた資料に基づく現時点での判断を示しているに過ぎません。

DZHは、本レポート中の情報を合理的な範囲で更新するようにはしておりますが、法令上の理由などにより、これができない場合があります。

本レポートは、お客様への情報提供のみを目的としたものであり、特定の金融商品の売買あるいは特定の金融商品取引の勧誘を目的としたものではありません。

また、本レポートによる情報提供は、投資等に関するアドバイスを含んでおりません。

本レポートにおいて言及されている投資やサービスは、個々のお客様の特定の投資目的、財務状況、もしくは要望を考慮したものではありませんので、個々のお客様に適切なものであるとは限りません。

本レポートで直接あるいは間接に取り上げられている金融商品は、株価の変動や、発行者の経営・財務状況の変化及びそれらに関する外部評価の変化、金利・為替の変動などにより投資元本を割り込むリスクがありますが、DZHは一切その責任を負いません。

DZHは、レポートを提供している証券会社との契約に基づき対価を得ております。

DZHおよびグループ会社は、本レポートの論旨と一致しないレポートを発行している場合があり、また今後そのようなレポートを発行する場合があります。

DZH、グループ会社およびその役職員は、本レポートに記載された金融商品について、ポジションを保有している場合があります。

本レポートでインターネットのアドレス等を記載している場合がありますが、DZH自身のアドレスが記載されている場合を除き、ウェブサイト等の内容についてDZHは一切責任を負いません。

本レポートの利用に際しては、お客様ご自身でリスク等についてご判断くださいますようお願い申し上げます。